

令和7年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和7年9月25日（木） 16:00～17:00

場所：龍馬看護ふくし専門学校・601教室

委員：美崎様、前田様、明神様、弘嶋様、川島様、前田様

オブザーバー：

野町校長、片岡副校長、大黒部長、石本課長、山下課長、池田

1 校長より挨拶

- ・教育課程編成委員会への参加に対する謝辞
- ・令和6年度 スポ健の1期生が卒業したため、今年度よりスポ健の教育実践課程の手続き行う

2 自己紹介

3 学校紹介（副校長）

- ・学校概要の説明

4 令和6年度の反省と今後の課題と及び令和6年度自己点検・評価について（校長）

- ・資料をもとに説明

美崎委員

本校非常勤講師の宮本先生とスポーツ健康学科の学生が、龍馬学園グループの芸術学園幼稚園にて園児への運動指導を行っている。この取り組みは、現場と連携した実践的な活動として非常に有意義である。宮本先生が学生に対して行っている指導内容は、当園の教員にとっても学びが多く、非常に参考になっている。

池田

学生たちは、学校で学んだ内容を現場で実践し、芸術幼稚園での活動を通じて、学びを深めている。活動後には学校に戻り、振り返りの授業を行っている。このような流れが確立されており、学生にとって非常に有意義な経験となっている。

前田委員

現在、実習生を受け入れられている。実習生たちは現場でさまざまなことに気づきを得ている様子が見られる。初めは緊張しており、声も小さく挨拶も控えめであったが、少しずつ園の雰囲気慣れ、子どもたちとの関わりも増えてきている。学生の成長が感じられ、学校の先生方のサポートが行き届いていることも伝わってくる。

山下

実習先には快く学生を受け入れていただいております。現場での丁寧なサポートが学生にとって大きな学びとなっている。学校では教えきれない実践的な部分を現場で経験させていただいている

ことは、非常に大きな強みであり、実習先に頼らせていただいている状況である。実習の中では様々な課題や問題も生じているが、それらも含めて学生の成長につながっており、実習先の先生方のご協力に深く感謝している。

明神委員

高校生の進路の選択肢が広がっている中で、専門学校としてしっかりと受け皿になっていただき、学生確保に努めてほしいと感じている。

看護師不足に対する強い危機感を持っており、看護師と多職種との給与差が縮まってきていることも志望者の減少につながっているのかではないかと考えている。この問題は病院会としても課題であり、非常に難しい状況である。

弘嶋委員

明神委員がおっしゃったように、福祉業界も看護業界と同様に厳しい状況にある。新聞等で報道されているような業界の課題や問題が取り上げられているが、現場では十分な予算が確保されていないという背景もある。こうした福祉の現場を見て、学生たちがこの分野に魅力を感じるかどうかは難しいところである。

一方で、学生たちには物事を多面的に捉え、考える力を身につけてほしい。現代社会では誤った情報や偏った報道が流れることもあるため、正しい情報を見極める力を養い、何が本当に大切なことなのかを自ら考えられる力を育てていくこと重要である。

川島委員

現代は、コミュニケーションが取りにくい時代の流れになってきており、人に直接質問するよりも、スマートフォンなどで調べえる方が手取り早いと感じる学生も多い。

こちらの学校は、対人関係に関わる職業訓練校であり、対人スキルの養成は非常に重要である。だからこそ、学生にはコミュニケーションを大切にし、人の痛みや気持ちを理解できるような人間性を育ててほしいと願っている。

山下

実習期間中、学生たちは相談相手を見つけることに苦労している様子が見られる。教員は深夜を問わず相談に対応しており、こうしたサポートを受けられないと、学生の心が折れてしまい、退学につながる可能性もある。そのため、実習期間中はいつでも連絡が取れるよう、普段はマナーモードにしている携帯電話を音が鳴る設定にして待機している。対応の際には、何かを指示するのではなく、まずは話を聞くことに徹しており、それによって学生が少しでも気持ちを楽にできるよう努めている。

本来であれば、実習先に相談すれば解決できるような内容も、学生が相談できずに抱え込んでしまうケースがあり、これはコミュニケーションの課題として捉えている。

明神委員

実習における相談対応について、担任の先生が対応されているとのことだが、当院の事例では、相談役を直属の上司ではなく、他分野の職員から選任している。

相談役は専門的な内容に詳しいわけではないが、親身になって耳を傾け、思いを汲み取る姿勢を大切にしている。この取り組みは始まったばかりではあるが、退職率の低下という成果も見られており、一定の効果があると感じている。

このような事例を踏まえ、あえて担任の先生ではなく、別の先生を相談役にするという方法も、学生の心理的な負担を軽減する一つの工夫として検討してみてもどうか。

校長

ご提案ありがとうございます。相談対応について、より広い視野で考える必要があると感じた。考えているようで、実際には十分に検討できていなかった視点であり、大変参考になった。今後の体制づくりにおいて、検討材料とさせていただきたい。

前田委員

学生募集が最大の課題であると考えます。副校長の学校説明にもあったように、龍馬看護ふくし専門学校の強みを積極的に発信し、県内外の高等学校に対して広くアピールしていくことが重要である。特に、高知県内の大学・専門学校業界の中で、学生募集の競争は激化しており、引き続き積極的な取り組みを期待したい。

また、OB・OGの活用による学校の魅力発信や、四国全体を対象として広域な募集活動も検討すべきである。

校長

貴重なご意見いただきありがとうございます。本学園はOB・OGが多く在籍しているのにもかかわらず、この強みを十分に活用できていないのが現状である。今後はこの強みを学生募集に積極的に活かしていきたいと考えている。

5 閉会の挨拶（校長）

第2回教育課程編成委員会は、来年2月に開催を予定しております。

本日お渡しした資料につきましては、ぜひご一読いただき、次回までにご意見をいただければ幸いです。

皆様からのご意見を参考にしながら、より良い教育課程の構築に努めてまいります。

今後ともご協力のほど、よろしく願いいたします。

以上